

**Q40a 「すざく」による銀河面リッジ X線放射の観測**

海老沢 研、村上 弘志、山崎 典子、前田 良知、江副 祐一郎、中澤 和洋、高橋 忠幸、田中 孝明 (宇宙航空研究開発機構)、山内 茂雄 (岩手大学)、田中 靖郎、岩沢 一司 (MPE)、馬場彩、千田 篤史、平賀 純子 (理研)、国分 紀秀 (東大)、辻本 匡弘 (立教大)、坪井 陽子 (中央大)、幸村 孝由 (工学院大)、小山 勝二、上田 佳宏 (京都大)、常深 博、田和 憲明、穴吹 直久 (大阪大)、深沢 泰司、水野 恒史、高橋 弘充 (広島大)

2005年秋に行われた「すざく」衛星による銀河面  $(l, b) = (28.^\circ 5, 0.^\circ 0)$  の観測結果については、2006年春の年会で速報を述べたが、今回はより詳細な解析結果を報告する。積分時間は100 ksecで、過去の観測に比べ統計にすぐれ、かつ4台のX線 CCD カメラ XIS による高分解スペクトルを取得することができた。鉄輝線は低電離の6.4 keV、ヘリウム様イオンの6.7 keV、水素様イオンの7.0 keV からの3本に分かれ、どれも有為な幅は検出されなかった。低エネルギー側からも、酸素、ネオン、シリコン、硫黄等の重元素からの細い輝線が観測された。非X線バックグラウンドと系外からのX線バックグラウンドを正確に見積り、またX線反射鏡の応答関数を計算することにより、銀河面リッジ成分の絶対強度を測定することができた。それは過去のXMM-Newton, Chandra による測定とも一致し、そのフラックスのすべてを点源だけで説明することは困難である。また、2006年9月に予定されている100 ksec 追観測の速報も行う予定である。